

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成20年4月21日  
(第35期) 至 平成21年4月20日

株式会社ダイサン

大阪府中央区南本町二丁目6番12号

(E05070)

# 目次

頁

表紙

第一部	企業情報	1
第1	企業の概況	1
1.	主要な経営指標等の推移	1
2.	沿革	3
3.	事業の内容	4
4.	関係会社の状況	5
5.	従業員の状況	5
第2	事業の状況	6
1.	業績等の概要	6
2.	生産、受注及び販売の状況	7
3.	対処すべき課題	9
4.	事業等のリスク	9
5.	経営上の重要な契約等	9
6.	研究開発活動	9
7.	財政状態及び経営成績の分析	10
第3	設備の状況	12
1.	設備投資等の概要	12
2.	主要な設備の状況	12
3.	設備の新設、除却等の計画	14
第4	提出会社の状況	15
1.	株式等の状況	15
(1)	株式の総数等	15
(2)	新株予約権等の状況	15
(3)	ライツプランの内容	15
(4)	発行済株式総数、資本金等の推移	15
(5)	所有者別状況	16
(6)	大株主の状況	16
(7)	議決権の状況	17
(8)	ストックオプション制度の内容	17
2.	自己株式の取得等の状況	18
3.	配当政策	19
4.	株価の推移	19
5.	役員の状況	20
6.	コーポレート・ガバナンスの状況等	21
第5	経理の状況	25
1.	財務諸表等	26
(1)	財務諸表	26
(2)	主な資産及び負債の内容	57
(3)	その他	61
第6	提出会社の株式事務の概要	62
第7	提出会社の参考情報	63
1.	提出会社の親会社等の情報	63
2.	その他の参考情報	63
第二部	提出会社の保証会社等の情報	63

[監査報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成21年7月9日
【事業年度】	第35期（自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日）
【会社名】	株式会社ダイサン
【英訳名】	DAISAN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 三浦 基和
【本店の所在の場所】	大阪市中央区南本町二丁目6番12号
【電話番号】	06（6243）6341
【事務連絡者氏名】	取締役副社長 金山 修二
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区南本町二丁目6番12号
【電話番号】	06（6243）6341
【事務連絡者氏名】	取締役副社長 金山 修二
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
決算年月	平成17年4月	平成18年4月	平成19年4月	平成20年4月	平成21年4月
売上高(千円)	8,076,818	8,177,189	8,371,388	7,390,292	7,124,068
経常利益または経常損失(△) (千円)	650,900	668,386	473,996	74,488	△11,800
当期純利益または純損失(△) (千円)	350,110	469,492	331,880	9,629	△275,715
持分法を適用した場合の投資利益(千円)	—	—	—	—	—
資本金(千円)	546,550	566,760	566,760	566,760	566,760
発行済株式総数(株)	7,524,000	7,618,000	7,618,000	7,618,000	7,618,000
純資産額(千円)	4,870,961	5,342,119	5,634,503	5,297,705	5,029,615
総資産額(千円)	7,356,480	7,539,403	7,978,950	7,245,090	6,718,258
1株当たり純資産額(円)	647.56	702.97	741.44	697.13	661.85
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	15 (6)	14 (6)	16 (8)	10 (5)	10 (5)
1株当たり当期純利益または純損失(△)(円)	45.31	61.99	43.67	1.27	△36.28
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率(%)	66.2	70.9	70.6	73.1	74.9
自己資本利益率(%)	7.3	9.2	6.0	0.2	—
株価収益率(倍)	10.15	11.78	11.72	236.75	—
配当性向(%)	33.1	22.6	36.6	789.2	—
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	406,208	174,336	621,983	385,882	421,192
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	△70,364	196,776	△686,814	△181,563	△53,737
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	△402,991	76,179	△189,289	△245,491	△213,993
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,045,876	1,493,168	1,239,047	1,197,874	1,351,336
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] (人)	257 [83]	276 [92]	301 [92]	321 [104]	439

(注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 第31期の1株当たり配当額15円は、設立30周年記念配当3円を含んでおります。

4. 第31期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、当社取締役及び当社従業員に新株引受権を付与しておりますが、新株引受権に係るプレミアムが生じていないため記載しておりません。第32期、第33期、第34期及び第35期については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
5. 関連会社がありませんので、持分法を適用した場合の投資損益は記載しておりません。
6. 従来、契約社員・常用パート等の人数については、臨時雇用者の意味合いを有する表現であったため、その平均人数を[ ]外数で記載しておりましたが、第35期第1四半期より、実体に応じた記載を行うため、従業員数に含めて記載しております。なお、第35期事業年度末の契約社員・常用パート等の人員は合計119名であります。
7. 第35期の自己資本利益率、株価収益率および配当性向については、当期純損失を計上しているため記載しておりません。

## 2【沿革】

年月	事項
昭和50年4月	建築金物、仮設機材の製造販売及びプレス加工を目的として大阪府堺市神南辺町（現堺市堺区）に株式会社大三機工商会を設立
昭和50年11月	社団法人仮設工業会に入会
昭和50年11月	「DSブラケット」の製造販売を開始
昭和53年7月	「DSカプラー」の製造販売を開始
昭和55年6月	クサビ式の低層用仮設足場「ビケ足場」を開発し製造販売を開始
昭和55年12月	商品センターを設置（現堺市中区）
昭和57年3月	ビケ足場の普及を目指し、大阪府堺市平井（現堺市中区）にビケ足場事業部を設置
昭和57年8月	本社及び工場を移転（現堺市中区）
昭和58年4月	福岡市東区にビケ足場事業部福岡営業所を設置（現福岡サービスセンター）
昭和59年2月	ビケ足場事業部を「ビケ足場」の西日本地区における販売及びレンタルの会社として、資本金20,000千円で株式会社ビケとして分離 ビケ足場の設計・施工付レンタルサービスである「ビケレンタルシステム」を構築し、事業部単位での組織運営を開始
昭和59年8月	「ビケ足場」が社団法人仮設工業会の認定品となる
平成元年2月	商号を株式会社ダイサンに変更
平成元年2月	本社を移転（大阪市中央区）
平成3年10月	東京支店（現東京支店）を設置（現東京都中央区）
平成4年3月	九州支店を設置（現福岡県古賀市）
平成7年12月	「DSハンガーステージ」の製造販売を開始
平成9年4月	経営体質の強化及び製造・開発から販売・施工にいたる総合仮設企業となるために株式会社ビケと合併し、サービスセンター15カ所、整備工場4カ所などを承継
平成12年3月	大阪証券取引所市場第二部に株式を上場
平成12年7月	品質保証の国際規格ISO9001を認証取得
平成14年7月	ISO9001（2000年版）品質マネジメントシステムに移行
平成14年11月	東日本地区へのビケ部材の直接販売開始
平成15年1月	新規事業部門として「住環境事業部」を設置
平成18年2月	首都圏進出第一号として、神奈川サービスセンターを設置（神奈川県相模原市）
平成20年3月	「ビケレンタルシステム」から「ビケシステムサービス」へ移行し、事業部制組織を機能単位組織に変更

### 3 【事業の内容】

当社は、昭和50年に建設仮設機材メーカーとして設立いたしました。その後、昭和55年に、主として住宅などの低層建築工事に用足場として用いられる、日本で初めてのくさび式足場「ビケ足場」を開発し、昭和57年には、ビケ足場設計・施工業務へ進出『ビケレンタルシステム』を開発し、住宅建築工事の作業の安全と効率化を図り、労働災害の減少に貢献してまいりました。しかしながら、昨今の建築関連工事における作業環境の問題については、労働災害を始め、各種災害の未然防止という社会の要請に適切に対応していくことが求められております。

そこで当社は、『ビケレンタルシステム』を『ビケシステムサービス』へ発展させ、企業に求められている社会的責任を追求することを事業の内容としております。

『ビケシステムサービス』は、①ビケ足場施工サービス、②外装施工サービス、③安全コンサルティングサービス、④ビケ足場システム販売の4つを柱とするサービスを提供することで、ビケ足場事業のステークホルダーの皆様に対して「安全、安心、感動」の足場文化を具現することを目的としております。

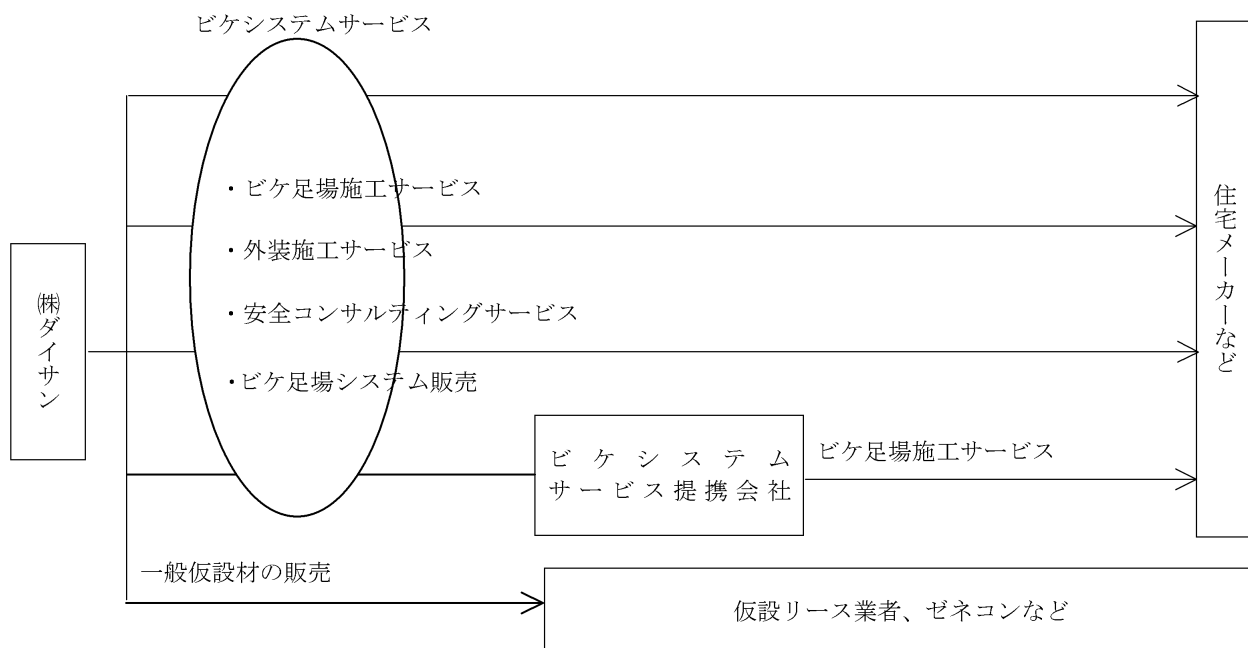
当社は現在、ビケ足場施工サービスの拠点として、西日本2府8県に21のサービスセンターと4つの整備工場、また首都圏に3つのサービスセンターと1つの整備工場、東海地区に1つのサービスセンターを擁し、住宅メーカーなどの顧客にサービスを提供しております。

さらに、直営のサービスセンターのほか、ビケ足場を取り扱う全国37の提携会社の傘下に165のビケ足場施工サービスの拠点があります。当社は、全国均一のサービスを提供できるように、これらの提携会社をビケ会という団体の下に組織し、施工や営業面での支援活動を行っております。

当社は、『ビケシステムサービス』のほかに、一般仮設材の製造販売事業を展開しており、ビルなどの中高層建築工事や橋梁などの土木工事で使われる一般仮設材を扱っております。

一般仮設材は、ビケ足場とちがいで、販売だけを目的としており、仮設リース業者・ゼネコンなどに販売しております。また、ビケ足場は各種のビケ部材だけで建築用足場が組み立てられますが、一般仮設材は、他社製品と組み合わせで用いられます。

ビケシステムサービス、販売事業の概要を図示すると、次のとおりであります。



販売経路別の比率は、次のとおりであります。

	販売経路	平成21年4月期 販売高比率(%)
施工営業	<pre> graph LR     A["(株)ダイサン"] --&gt; B["住宅メーカーなど"]             </pre>	77.4
営業一部 営業二部	<pre> graph LR     A["(株)ダイサン"] --&gt; B["商社"]     B --&gt; C["ビケシステム サービス提携会社 仮設リース業者 ゼネコンなど"]     A --&gt; C             </pre>	22.6
合計		100.0

#### 4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

#### 5 【従業員の状況】

##### (1) 提出会社の状況

平成21年4月20日現在

従業員数 (人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与 (円)
439	35.4歳	6.7年	3,684,505

(注) 1. 平均年間給与(税込み)は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

2. 従来、契約社員・常用パート等の人数については、臨時雇用者の意味合いを有する表現であったため、その平均人数を( )外数で記載しておりましたが、第35期第1四半期より、実体に応じた記載を行うため、従業員数に含めて記載しております。なお、第35期事業年度末の契約社員・常用パート等の人員は合計119名であります。

##### (2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておきませんが、労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。



## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当事業年度におけるわが国経済は、世界規模での金融市場の混乱が实体经济へ大きな影響を及ぼし、円高の進行や株価の大幅な下落により企業収益は減少し、設備投資の減退、雇用への先行き不安、個人消費の冷え込みなど、景気は急速に悪化しました。

このような情勢の中で、当社に関連の深い建設・住宅業界におきましては、景気の先行き不安から住宅購入を手控える動きが強まり、第4四半期における新設住宅着工戸数が年換算90万户を割れ込むほどの厳しい環境が続いております。

当社におきましては、生産性を上げ売上を確保するために、リフォームや中層物件での受注機会の拡大を図り、品質を重視した製品・サービス、すなわち品質保証機能を付加した『ビケシステムサービス』の提供に努めてまいりました。傍ら、労働安全衛生規則の改正に対応して、『ビケ足場手すり先行工法』の仕様標準化を行うなど、市場構造の変化に対する準備を進め、一層の施工品質改善のため、社内検定制度の制度構築を行いました。

また、一般仮設製品分野では、取引先との協力関係を強め、新たな製品を共同開発し、市場に供給いたしました。

結果として、前年を上回る経営成績を残した一部事業所もございましたが、景気の落ち込みは予想以上に厳しいものがあり、加えて投資有価証券の評価損や、退職給付費用の追加計上など市場要因に起因する多額の費用発生もあって、全体として大幅な減収減益を余儀なくされました。

当期の売上は施工サービス事業で277百万円増の5,428百万円(前年同期比5.4%増)、製商品販売事業で554百万円減の1,583百万円(同25.9%減)となりました。なお、当事業年度より従来のレンタル売上高を施工売上高に、商品売上高の一部を施工売上高に変更しております。損益面におきましては、営業損失は25百万円(前年同期は営業利益68百万円)、経常損失は11百万円(前年同期は経常利益74百万円)となり、当期純損失は275百万円(前年同期は当期純利益9百万円)となりました。

#### (2) キャッシュ・フロー

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末と比較して153百万円増加の1,351百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は421百万円(前年同期比9.2%増)となりました。

これは、税引前当期純損失250百万円、仕入債務の減少額392百万円等がある一方、売上債権の減少額383百万円、投資有価証券評価損245百万円、退職給付引当金の増加額174百万円、減価償却費135百万円等があったことを反映したものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は53百万円となりました。(前年同期比70.4%減)となりました。

これは、貸付金の回収による収入15百万円等がある一方、有形固定資産の取得による支出52百万円、貸付による支出11百万円等があったことを反映したものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は213百万円(前年同期比12.8%減)となりました。

これは、長期借入金の返済による支出138百万円、配当金の支払額75百万円があったことを反映したものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 施工能力

施工用資産であるビケ部材の当社の保有高は次のとおりであります。

品目別	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)	前年同期比 (%)
施工能力㎡数 (千平方メートル)	1,195	94.9

(注) 当社の施工用資産は極めて多種多様にわたり、かつ同種の品目であっても仕様、構造、形式は一様ではありません。このため、保有する主要部材で施工可能な広さを建物の架㎡数で表示しております。

ここに、主要部材とは、支柱・踏板・布材・ブラケット・ジャッキベースのことであります。

### (2) 生産実績

当事業年度の実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)	前年同期比 (%)
ビケ部材 (千円)	1,134,464	91.7
一般仮設 (千円)	557,806	119.7
合計 (千円)	1,692,270	99.4

(注) 1. 金額は販売価格によります。

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 外注の状況

当社は製品の製造及び部品加工の大部分を外注に依存しております。その依存度は、外注費が総製造費用に対し当事業年度で35.7%を占めております。

なお、主な外注先は、株式会社山本興業、株式会社西川製作所、株式会社カワモト等であります。

### (4) 商品仕入実績

当事業年度の商品仕入実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)	前年同期比 (%)
ビケ部材 (千円)	129,440	105.2
一般仮設 (千円)	42,578	11.2
合計 (千円)	172,019	34.1

(注) 1. 金額は仕入価格によります。

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

## (5) 受注状況

当事業年度の受注状況を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別		受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
製品	ビケ部材	868,883	84.6	6,509	53.8
	一般仮設	554,668	120.0	2,248	10.5
商品	ビケ部材	87,030	96.7	3,434	283.7
	一般仮設	39,017	8.6	509	4.3
合計		1,549,599	76.3	12,701	27.2

- (注) 1. 数量については、種類が多岐にわたり表示が困難であるため記載を省略しております。  
 2. 受注高は出荷額をベースに記載しております。  
 3. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

## (6) 販売実績

当事業年度の販売実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別		当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)	前年同期比 (%)
施工 (千円)		5,428,114	105.4
製品	ビケ部材 (千円)	874,358	77.6
	一般仮設 (千円)	573,952	122.1
	計 (千円)	1,448,311	90.7
商品	ビケ部材 (千円)	89,456	99.2
	一般仮設 (千円)	45,804	10.1
	計 (千円)	135,261	25.0
その他売上収入 (千円)		112,380	110.9
合計 (千円)		7,124,068	96.4

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 品目区分「施工」には、足場施工と外装施工が含まれております。

### 3 【対処すべき課題】

当社をとりまく環境は、内外の諸情勢からみて、今後とも厳しい状況が予想されますが、当社におきましては平成21年6月に施行された労働安全衛生規則の改正にいち早く対処し、顧客のニーズに対応して新たな市場を開拓するため、積極的に新製品を開発してまいります。

具体的には、労働安全衛生規則改正対応商品として、より安全性の高い『ビケ足場手すり先行工法』の提供、『ビケ足場品質保証システム』の構築、製商品販売事業ではマーケティングと製品開発を強化して、品揃えを充実させることで顧客ニーズへ対応し、新たな市場拡大を目指すと共に、経営品質の向上に努めて、売上高、利益を適正に確保してまいります。

### 4 【事業等のリスク】

当社の事業に関するリスクについて、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項を記載しております。なお、当社は、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

#### ① 住宅着工戸数の動向

当社は、住宅関連産業を通して事業展開を行っておりますので、例えば建築基準法の改正、住宅ローン減税等の優遇策が廃止された場合などにより大幅に新設住宅着工戸数が減少した場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### ② 原材料価格の変動

当社は、ビケ足場及び一般仮設機材の製造を行っており、原材料価格の著しい変動が、製品原価の高騰を招いた場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### ③ 施工能力の変動

当社は、ビケシステムサービスとして、ソリューション機能と施工機能をもって事業運営を行っております。その結果、施工能力が計画的に確保できない場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### ④ その他

当社は、事業展開上、様々なリスクがあることを認識し、それらをできる限り事前の防止、分散あるいは回避するように努めております。しかしながら、当社が事業を遂行するにあたり、経済情勢、金融・株式市場、法的規制や災害及びその他の様々な影響が発生した場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 6 【研究開発活動】

研究開発は、当社営業一部商品開発課が主管となって行っております。

この研究の推進にあたっては、商品開発課を中心に営業関連各部、及び施工部が協同し、顧客と一体となったマーケティングを実施して設計開発業務を推進しております。

当事業年度における研究開発費の総額は27百万円となっております。

また、製品開発については年々需要が増えてきているリフォーム工事も視野に入れ、現場の安全・作業性向上・現場環境のイメージアップ等につながる独自のオリジナル製品の開発及び既存部材の改良に取り組んでおります。

## 7 【財政状態及び経営成績の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

詳細につきましては、「第5 [経理の状況] [財務諸表等]」の重要な会計方針をご参照ください。

### (2) 財政状態の分析

#### (流動資産)

当事業年度末の資産につきましては、流動資産の残高が3,828百万円となり、361百万円減少しました。現金及び預金が153百万円、受取手形が122百万円増加した一方、売掛金が523百万円減少したことが主な要因であります。

#### (固定資産)

当事業年度末における固定資産の残高は2,889百万円となり、165百万円減少しました。投資有価証券が評価替により107百万円減少したのが主な要因です。

#### (流動負債)

当事業年度末における流動負債の残高は1,196百万円となり、296百万円減少しました。未払法人税等が100百万円増加した一方、支払手形が58百万円、買掛金が340百万円減少したことが主な要因であります。

#### (固定負債)

当事業年度末における固定負債の残高は491百万円となり、37百万円増加しました。長期借入金が138百万円減少した一方、退職給付引当金が174百万円増加したのが主な要因であります。

#### (純資産)

当事業年度末における純資産の残高は、5,029百万円となり、268百万円減少しました。当期純損失275百万円があり、剰余金の配当で75百万円減少したことが主な要因であります。

### (3) キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析につきましては、「1 [業績等の概要] (2)キャッシュ・フロー」の状況のとおりであります。指標のトレンドを示しますと下記のとおりであります。

	平成20年4月期	平成21年4月期
自己資本比率 (%)	73.1	74.9
時価ベースの自己資本比率 (%)	31.5	30.5
債務償還年数 (年)	1.2	0.8
インタレスト・カバレッジ・レシオ	36.7	54.7

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

債務償還年数：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

1. 株式時価総額は、期末株価終値×自己株式控除後の期末発行済株式数により算出しております。
2. 営業キャッシュ・フローは、キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

### (4) 経営成績の分析

当事業年度における売上高は施工サービス事業で277百万円増の5,428百万円(前年同期比5.4%増)、製商品販売事業で554百万円減の1,583百万円(同25.9%減)となりました。損益面におきましては、営業損失は25百万円(前年同期は営業利益68百万円)、経常損失は11百万円(前年同期は経常利益74百万円)となり、当期純損失は275百万円(前年同期は当期純利益9百万円)となりました。

結果として、前年を上回る経営成績を残した一部事業所もございましたが、景気の落ち込みは予想以上に厳しいものがあり、加えて投資有価証券の評価損や、退職給付費用の追加計上など市場要因に起因する多額の費用発生もあって、全体として大幅な減収減益を余儀なくされました。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当事業年度に実施いたしました設備投資の総額は、55百万円であります。その主なものは、製造部における部材生産用金型の製作等による41百万円であります。

また、上記の他、施工サービス事業において賃貸用仮設材245百万円を新規投入しております。

なお、当事業年度に重要な影響を及ぼす設備の売却、撤去はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

平成21年4月20日現在における各事業所の設備、投下資本並びに従業員の配置状況は、次のとおりであります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
		建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
堺工場 (堺市中区)	仮設機材の製造施設	30,055	43,125	416,044 (5,026.58)	14,901	504,127	20 (0)
商品センター (堺市中区)	配送及び保管施設	1,787	—	95,920 (7,148.00)	73	97,780	3 (0)
本社 (大阪府中央区)	統括業務施設	11,029	—	— (672.23)	15,377	26,406	53 (0)
大阪整備工場 (堺市中区)	仮設機材の整備施設	3,169	4,181	— —	—	7,350	6 (0)
福岡東整備工場 (福岡県京都郡みやこ町)	仮設機材の整備施設	4,768	10,516	— —	112	15,397	7 (0)
神戸北整備工場 (神戸市北区)	仮設機材の整備施設	728	1,079	— (1,097.64)	9	1,818	6 (0)
福岡南整備工場 (福岡県久留米市)	仮設機材の整備施設	3,248	3,142	— (6,758.13)	9	6,399	7 (0)
埼玉整備工場 (埼玉県狭山市)	仮設機材の整備施設	31,926	3,959	— —	—	35,886	3 (0)
九州教育研修所 (福岡県久留米市)	研修施設	2,412	—	— —	448	2,860	0 (0)
東京支店 (東京都中央区)	販売業務施設	9	—	— (105.69)	—	9	8 (0)
滋賀 サービスセンター (滋賀県草津市)	施工サービス施設	1,297	—	— (2,637.00)	332	1,629	16 (0)
京都 サービスセンター (京都府亀岡市)	施工サービス施設	3,163	—	— (3,027.98)	91	3,255	16 (0)
本部教育研修所 (堺市中区)	研修施設	497	—	— —	—	497	0 (0)
大阪 サービスセンター (堺市中区)	施工サービス施設	15,124	13	— (5,177.86)	551	15,689	29 (0)
大阪北 サービスセンター (大阪府枚方市)	施工サービス施設	2,264	—	— (1,700.80)	241	2,506	10 (0)
京奈 サービスセンター (京都府木津川市)	施工サービス施設	—	—	— (2,574.67)	—	—	1 (0)

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
		建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
神戸北 サービスセンター (神戸市北区)	施工サービス施設	2,787	—	— (2,717.00)	279	3,067	12 (0)
兵庫 サービスセンター (兵庫県加古川市)	施工サービス施設	3,215	—	— (4,504.50)	430	3,645	15 (0)
広島 サービスセンター (広島市安佐南区)	施工サービス施設	2,964	—	— (6,610.00)	363	3,327	10 (0)
広島東 サービスセンター (広島県東広島市)	施工サービス施設	5,307	—	— (3,158.00)	154	5,461	11 (0)
岡山 サービスセンター (岡山県倉敷市)	施工サービス施設	—	—	— (1,322.35)	—	—	6 (0)
山口東 サービスセンター (山口県岩国市)	施工サービス施設	733	—	— (2,274.00)	152	886	5 (0)
山口 サービスセンター (山口県下関市)	施工サービス施設	7,469	—	— (3,944.97)	192	7,661	8 (0)
北九州 サービスセンター (北九州市八幡西区)	施工サービス施設	—	—	— (1,651.00)	—	—	6 (0)
福岡東 サービスセンター (福岡県京都市郡みやこ町)	施工サービス施設	9,403	—	87,440 (6,507.00)	69	96,913	16 (0)
福岡 サービスセンター (福岡県古賀市)	施工サービス施設	7,358	—	430,348 (5,936.15)	392	438,099	22 (0)
九州支店 (福岡県古賀市)	販売業務施設	14,064	—	70,605 (737.97)	—	84,670	4 (0)
福岡西 サービスセンター (福岡県糸島郡二丈町)	施工サービス施設	3,557	—	144,915 (5,207.00)	91	148,564	4 (0)
福岡南 サービスセンター (福岡県久留米市)	施工サービス施設	4,274	—	— (3,305.91)	368	4,643	18 (0)
大分 サービスセンター (大分県大分市)	施工サービス施設	3,533	—	105,912 (4,718.00)	87	109,533	17 (0)
大分北 サービスセンター (大分県宇佐市)	施工サービス施設	—	—	— (2,578.00)	—	—	4 (0)
熊本北 サービスセンター (熊本県玉名郡南関町)	施工サービス施設	2,001	—	— (5,401.00)	208	2,210	2 (0)



事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
		建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
熊本 サービスセンター (熊本県熊本市)	施工サービス施設	909	—	— (5,258.00)	182	1,092	25 (0)
愛知 サービスセンター (愛知県弥富市)	施工サービス施設	37,249	—	30,000 (356.42)	—	67,249	13 (0)
神奈川 サービスセンター (神奈川県相模原市)	施工サービス施設	3,526	—	— (2,105.40)	146	3,672	18 (0)
東京 サービスセンター (東京都武蔵村山市)	施工サービス施設	919	—	— (1,980.00)	171	1,090	14 (0)
埼玉 サービスセンター (埼玉県狭山市)	施工サービス施設	145,062	—	368,608 (7,604.92)	354	514,025	24 (0)
埼玉教育研修所 (埼玉県狭山市)	研修施設	418	—	— —	121	540	0 (0)
淡路島 オーナーズビル (兵庫県洲本市)	保養施設	853	—	989 (5.48)	—	1,842	0 (0)
合計	—	367,097	66,018	1,750,783 (113,809.65)	35,917	2,219,816	439 (0)

- (注) 1. 金額は帳簿価額であります。  
2. 土地の面積には賃借中のものも含まれております。  
3. 本部教育研修所の土地は、大阪サービスセンターと同敷地内であり、同サービスセンターで表示しております。  
福岡東整備工場の土地は、福岡東サービスセンターと同敷地内であり、同サービスセンターで表示しております。  
大阪整備工場の土地は、堺工場と同敷地内であり、同工場で表示しております。  
九州教育研修所の土地は、福岡南整備工場と同敷地内であり、同整備工場で表示しております。  
埼玉整備工場及び埼玉教育研修所の土地は、埼玉サービスセンターと同敷地内であり、同サービスセンターで表示しております。  
4. 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具及び備品35,917千円であります。  
5. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人数を( )外数で記載しております。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当事業年度末現在における重要な設備の新設計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	26,000,000
計	26,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成21年4月20日)	提出日現在発行数(株) (平成21年7月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,618,000	7,618,000	(株)大阪証券取引所 (市場第二部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	7,618,000	7,618,000	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成17年4月21日～ 平成17年10月20日 (注)	94,000	7,618,000	20,210	566,760	20,210	649,860

(注) 旧商法第280条ノ19第1項の規定に基づくストックオプション(新株引受権方式)の権利行使による増加であります。

## (5) 【所有者別状況】

平成21年4月20日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							単元未満株式の状況 （株）	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	5	3	43	1	—	658	710	—
所有株式数 （単元）	—	3,646	64	21,749	320	—	50,394	76,173	700
所有株式数の 割合（%）	—	4.78	0.08	28.55	0.42	—	66.15	100	—

（注） 1. 自己株式18,640株は、「個人その他」に186単元及び「単元未満株式の状況」に40株を含めて記載しております。

2. 「その他の法人」欄には、証券保管振替機構名義の株式が1単元含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

平成21年4月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 （千株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
三浦 基和	大阪府大阪狭山市	1,248	16.38
エスアールジータカミヤ株式会社	大阪市北区茶屋町19-19	1,061	13.92
ダイサン取引先持株会	大阪市中央区南本町2丁目6-12	447	5.87
有限会社和顔	大阪府大阪狭山市大野台6丁目6-12	424	5.56
大原 春子	大阪府大阪狭山市	343	4.50
ダイサン従業員持株会	大阪市中央区南本町2丁目6-12	319	4.19
金沢 昭枝	堺市北区	275	3.61
三浦 民子	堺市北区	271	3.55
大阪中小企業投資育成株式会社	大阪市北区堂島浜1丁目2-6	200	2.62
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	180	2.36
計	—	4,769	62.60

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成21年4月20日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 18,600	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式 (その他)	普通株式 7,598,700	75,987	同上
単元未満株式	普通株式 700	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	7,618,000	—	—
総株主の議決権	—	75,987	—

(注) 「完全議決権株式 (自己株式等)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式100株が含まれております。「議決権の数 (個)」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成21年4月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
(株) ダイサン	大阪市中央区南本町2丁目6番12号	18,600	—	18,600	0.24
計	—	18,600	—	18,600	0.24

(8) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成21年3月4日)での決議状況 (取得期間 平成21年3月9日～平成21年4月20日)	100,000	35,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	—	—
残存決議株式の総数及び価額の総額	100,000	100,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0
当期間における取得自己株式	33,400	9,519,000
提出日現在の未行使割合(%)	66.6	72.8

(注) 当期間における取得自己株式には、受渡日が当事業年度末後のものが含まれます。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	18,640	—	52,040	—

### 3 【配当政策】

当社は、業績が景気変動の影響を大きく受ける中で、株主の皆様への利益還元と業績を拡大していくための内部留保とのバランスを考慮し、適切な配当を行う事を基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり10円の配当（うち中間配当5円）を実施することを決定しました。

内部留保金につきましては、業界環境の厳しい中、継続的な業績の伸張を図るため、事業拡大と経営基盤の強化に重点的な投資をしております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年10月20日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成20年11月6日 取締役会決議	37	5
平成21年7月9日 定時株主総会決議	37	5

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
決算年月	平成17年4月	平成18年4月	平成19年4月	平成20年4月	平成21年4月
最高(円)	473	910	730	557	367
最低(円)	300	455	498	286	161

(注) 最高・最低株価は、株式会社大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成20年11月	12月	平成21年1月	2月	3月	4月
最高(円)	223	250	275	367	320	300
最低(円)	180	200	220	235	278	255

(注) 最高・最低株価は、株式会社大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

## 5【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		三浦 基和	昭和24年10月5日生	昭和50年4月 当社入社 昭和50年12月 当社専務取締役 昭和57年7月 代表取締役社長(現任)	(注) 3	1,248
取締役 副社長	経営企画室・管 理本部管掌	金山 修二	昭和24年6月15日生	昭和47年4月 株式会社住友銀行入行(現 株 式会社三井住友銀行) 平成11年6月 株式会社森本組常務取締役 平成16年4月 株式会社明成商会専務取締役 平成17年5月 株式会社関西アーバン銀行理事 平成18年6月 株式会社関西クレジット・サー ビス代表取締役副社長 平成19年3月 当社入社 平成19年7月 取締役副社長(現任) 平成20年2月 経営企画室・管理本部管掌(現 任)	(注) 3	5
常務取締役	施工本部本部長	上村 信太郎	昭和34年8月9日生	昭和62年7月 当社入社 平成8年3月 熊本サービスセンター所長 平成14年2月 レンタル事業本部 近畿エリア統括部長 平成15年1月 レンタル事業本部副本部長 平成15年7月 執行役員 平成16年3月 レンタル事業本部本部長 平成17年7月 取締役 平成19年7月 常務取締役(現任) 平成20年3月 施工本部本部長(現任)	(注) 3	17
取締役	営業本部本部長	藤田 武敏	昭和43年11月20日生	平成5年10月 当社入社 平成12年6月 大阪サービスセンター係長 平成13年4月 第一営業企画部課長 平成14年4月 営業企画部部長 平成15年2月 住環境事業部部長 平成15年7月 執行役員就任 平成17年10月 住環境事業部リーダー 平成19年7月 取締役就任(現任) 平成20年3月 営業本部本部長(現任)	(注) 3	13
常勤監査役		森 義明	昭和24年8月15日生	平成元年9月 当社入社 平成3年2月 大阪サービスセンター所長 平成6年4月 広島サービスセンター所長 平成11年6月 内部監査室室長 平成17年7月 監査役(現任)	(注) 4	3
監査役		斐 薫	昭和28年3月30日生	昭和63年4月 大阪弁護士会弁護士登録 平成2年9月 当社法律顧問 平成5年3月 東亜法律事務所開設 平成9年8月 心斎橋総合法律事務所副所長 平成11年7月 当社監査役(現任) 平成15年2月 オルビス法律事務所開設	(注) 4	—
監査役		石 光仁	昭和32年9月14日生	昭和60年8月 日本公認会計士協会 公認会計士登録 平成元年7月 石光仁公認会計士事務所開設 平成12年7月 当社監査役(現任)	(注) 2	2
計						1,288

- (注) 1. 監査役斐 薫及び石 光仁は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
2. 平成19年7月18日開催の定時株主総会終結の時から4年間  
3. 平成21年7月9日開催の定時株主総会終結の時から2年間  
4. 平成21年7月9日開催の定時株主総会終結の時から4年間

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営環境の変化に、迅速かつ適正な意思決定を行うことが、全てのステークホルダーの信頼を高めていくという観点から、効率性と透明性の高い経営体制の確立を目指しております。

#### ① 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

##### イ. 会社の機関の基本説明

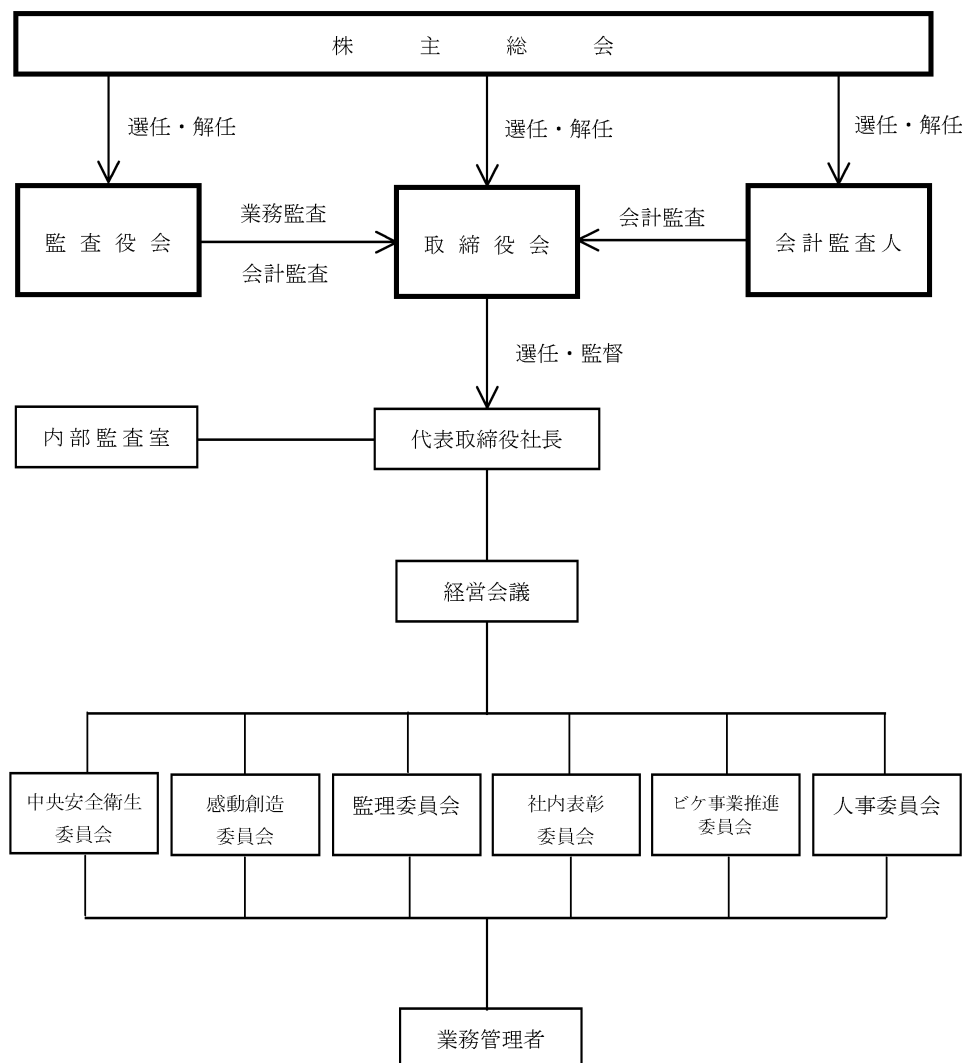
当社は「取締役会」「監査役会」制度を採用し、経営の意思決定、執行並びに経営監視を行うことでコーポレートガバナンスの充実を図っております。

当社の取締役会は、毎月1回の定例取締役会に加え、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要な意思決定を行うとともに、業務執行の監視を逐次行っております。また、取締役会において決定された意思決定に基づく業務執行に関する事項については、経営会議や6つの専門委員会（中央安全衛生、感動創造、監理、社内表彰、ビケ事業推進、人事）での合議によって決定がなされ、組織に従って取組みの徹底を図っております。

監査役会は、常勤監査役1名と非常勤監査役2名の計3名で構成され（うち2名は社外監査役）監査役会が定めた方針に従い、取締役会等の重要な会議へ出席し、必要があると認められるときは、意見を述べております。

また、重要書類の閲覧、業務、財産状況の調査等を通じて取締役の職務執行の監査を行っております。

##### ロ. 経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織を図で示すと以下のとおりであります。





#### ハ. 内部統制システムの整備の状況

当社は、「社是」「企業理念」「経営方針」「品質方針」「安全衛生管理方針」を事業運営の基本方針とし、代表取締役がその精神を役職者はじめ全使用人に継続的に伝達することにより、法令遵守と社会倫理の遵守が企業活動の原点であることを周知徹底させ、会社法等で定められた体制の構築、維持・整備を行っております。

この基本方針をもとに、財務報告の信頼性の確保、事業活動に関わる法令等の遵守といった内部統制システムの目的を達成するため、適切な組織を形成し、指揮命令の系統を確保し、会社規程に基づき、業務分掌及び職務権限等を明確にし、内部統制の整備を行っております。

#### ニ. 内部監査及び監査役監査の状況

当社では、内部監査は、内部監査プロジェクトチームが業務執行状況に関し、その妥当性と効率性を監査し、内部統制についての評価を行っております。内部監査実施時には、重点監査項目について、必ず他部門との共同ミーティングを開催し、終了後も同ミーティングにて抽出された問題点や課題について協議し、その結果は速やかに社長に報告しております。

監査役監査は、現在3名の監査役（うち2名は社外監査役）により行っております。監査役は取締役とはその職責を異にし、取締役の職務執行が法令及び定款等に違反するおそれがあると認めた場合には取締役に対し必要な助言又は勧告等を行い、かつ重大な損失を未然に抑止する責務を負い株主の利益を保護しております。監査役は、原則として3ヶ月に1回監査役会を開催し、監査についての重要事項の協議を行い、監査役相互の情報を共有しております。

会計監査は、取締役が作成した財務諸表による企業内容の適正性や財務諸表作成過程における内部統制の有効性等を評価し財務諸表の適否に係る意見を表明する役割を担っており、その情報を利用する一般投資家、株主、債権者の利益を保護しております。

これら三つの監査は、経営の健全性をチェックする機能として究極的には同一の使命を担っております。当社においては、三者は中間、期末及び期中監査終了後には、内部監査部門も含めた「三者会議」を開催し、結果報告と抽出された課題等について協議することで情報の共有化を図ることで有機的に結合し、かつ、それぞれの持つ機能を相互補完しあっております。

#### ホ. 会計監査の状況

当事業年度において当社の会計監査業務を執行した公認会計士は藤本勝美(継続監査期間5年)、野村利宏(継続監査期間1年)であり、霞が関監査法人に所属し、両者とも同監査法人の代表社員であります。

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士3名、会計士補等2名、その他2名であります。

#### ヘ. 社外監査役との関係

当社の社外監査役との間には、特別の利害関係はありません。

### ② リスク管理体制の整備の状況

当社では、公正かつ公平な社内監査組織として内部監査室を設置し、監査計画に基づく社内業務監査を実施しております。さらに、会計監査人である霞が関監査法人の監査計画に基づく会計監査も当社のコーポレート・ガバナンスに大きな役割を果たしております。

コーポレート・ガバナンスの基盤となるコンプライアンスにつきましては、全社への周知徹底を図る一方、社内的には管理本部を中心として、法令遵守や企業倫理確立などをはじめ、社会の要請に応える機能の充実を図っており、一方で顧問弁護士をはじめ弁理士、公認会計士、税理士、社会保険労務士など各業務分野に関わる専門家から適時アドバイスを受ける体制を構築しており、経営に必要な有効情報を確保して、あらゆるリスクの回避に努めております。

### ③ 役員報酬の内容

当社の役員報酬の内容は以下のとおりであります。

取締役を支払った報酬	79,412千円
監査役を支払った報酬	9,960千円

④ 取締役会の定数

当社は、取締役の定数を7名以内とする旨を定款に定めております。

⑤ 取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款に定めております。

⑥ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を目的とするものであります。

⑦ 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行を可能とすることを目的とするものであります。

⑧ 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって中間配当を支払うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑨ 取締役及び監査役の実任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

⑩ 責任限定契約の内容の概要

当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
—	—	17,000	8,800

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

当社は、霞が関監査法人に対して、内部統制システムに関するアドバイザリ業務を受け、対価を支払っております。

④ 【監査報酬の決定方針】

監査報酬の決定については、監査計画の妥当性を検証した上で決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1. 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成19年4月21日から平成20年4月20日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成20年4月21日から平成21年4月20日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（平成19年4月21日から平成20年4月20日まで）及び当事業年度（平成20年4月21日から平成21年4月20日まで）の財務諸表について、霞が関監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

1 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成20年4月20日)	当事業年度 (平成21年4月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,197,874	1,351,336
受取手形	※2 455,905	※2 578,896
売掛金	1,281,417	757,988
商品	41,125	—
製品	335,163	—
原材料	120,843	—
商品及び製品	—	391,118
原材料及び貯蔵品	—	96,625
仕掛品	112,163	86,543
貯蔵品	2,760	—
賃貸用仮設材	472,345	444,783
前払費用	13,809	18,337
繰延税金資産	58,873	80,067
未収入金	101,020	42,052
その他	13,543	15,721
貸倒引当金	△17,240	△35,034
流動資産合計	4,189,605	3,828,437
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 799,531	※1 799,859
減価償却累計額	△471,208	△500,680
建物(純額)	328,323	299,179
構築物	325,550	326,466
減価償却累計額	△242,001	△258,548
構築物(純額)	83,548	67,917
機械及び装置	667,139	678,539
減価償却累計額	△594,010	△612,532
機械及び装置(純額)	73,129	66,007
車両運搬具	355	355
減価償却累計額	△340	△344
車両運搬具(純額)	14	10
工具、器具及び備品	269,989	296,867
減価償却累計額	△230,237	△260,949
工具、器具及び備品(純額)	39,751	35,917
土地	※1 1,750,783	※1 1,750,783
有形固定資産合計	2,275,551	2,219,816
無形固定資産		
借地権	15,936	15,936

(単位：千円)

	前事業年度 (平成20年4月20日)	当事業年度 (平成21年4月20日)
ソフトウェア	59,005	34,557
電話加入権	6,627	6,627
その他	211	154
無形固定資産合計	81,781	57,275
投資その他の資産		
投資有価証券	297,631	190,526
出資金	1,060	1,060
長期貸付金	434	390
従業員長期貸付金	477	—
破産更生債権等	47,141	41,039
長期前払費用	13,319	12,581
保険積立金	88,876	92,643
差入保証金	191,377	193,534
繰延税金資産	102,748	119,765
その他	7,465	7,465
貸倒引当金	△52,379	△46,277
投資その他の資産合計	698,152	612,729
固定資産合計	3,055,484	2,889,821
資産合計	7,245,090	6,718,258
負債の部		
流動負債		
支払手形	※2 243,133	※2 184,453
買掛金	657,354	317,051
1年内返済予定の長期借入金	※1 138,000	※1 138,000
未払金	55,489	71,412
未払費用	146,544	157,456
未払法人税等	—	100,975
未払消費税等	28,342	27,240
前受金	36,910	27,669
預り金	70,299	64,661
賞与引当金	117,369	107,998
その他	12	26
流動負債合計	1,493,456	1,196,945
固定負債		
長期借入金	※1 339,500	※1 201,500
退職給付引当金	21,727	196,698
役員退職慰労引当金	92,700	93,500
固定負債合計	453,927	491,698
負債合計	1,947,384	1,688,643

(単位：千円)

	前事業年度 (平成20年4月20日)	当事業年度 (平成21年4月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	566,760	566,760
資本剰余金		
資本準備金	649,860	649,860
資本剰余金合計	649,860	649,860
利益剰余金		
利益準備金	49,795	49,795
その他利益剰余金		
別途積立金	3,778,000	3,778,000
繰越利益剰余金	337,241	△14,468
利益剰余金合計	4,165,036	3,813,327
自己株式	△5,443	△5,443
株主資本合計	5,376,212	5,024,503
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△78,506	5,111
評価・換算差額等合計	△78,506	5,111
純資産合計	5,297,705	5,029,615
負債純資産合計	7,245,090	6,718,258

## ②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
<b>売上高</b>		
レンタル売上高	5,150,542	—
施工売上高	—	5,428,114
製品売上高	1,596,590	1,448,311
商品売上高	541,831	135,261
その他売上収入	101,327	112,380
売上高合計	7,390,292	7,124,068
<b>売上原価</b>		
レンタル売上原価	3,470,415	—
施工売上原価	—	4,696,079
製品売上原価		
製品期首たな卸高	431,616	335,163
当期製品製造原価	※3 1,270,255	※3 1,203,131
合計	1,701,872	1,538,295
製品期末たな卸高	335,163	361,906
製品他勘定振替高	※1 262,300	※1 244,409
製品売上原価	1,104,408	931,978
商品売上原価		
商品期首たな卸高	46,920	30,349
当期商品仕入高	504,384	172,019
合計	551,305	202,369
商品期末たな卸高	41,125	26,566
商品他勘定振替高	※2 52,070	※2 65,355
商品売上原価	458,108	110,447
その他売上原価	56,403	60,569
売上原価合計	5,089,335	5,799,075
<b>売上総利益</b>	2,300,957	1,324,993
<b>販売費及び一般管理費</b>		
運搬費	48,297	37,130
広告宣伝費	7,535	5,166
貸倒引当金繰入額	10,949	37,827
給料及び手当	833,619	433,893
賞与	78,466	45,342
賞与引当金繰入額	95,755	49,479
退職給付費用	102,670	71,668
役員退職慰労引当金繰入額	7,000	6,800
法定福利費	149,686	81,234
福利厚生費	71,851	30,578
旅費及び交通費	70,198	56,136
地代家賃	131,553	84,027



(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
減価償却費	83,749	15,990
租税公課	15,080	6,440
事業税	10,880	11,846
その他	※3 514,863	※3 376,952
販売費及び一般管理費合計	2,232,157	1,350,515
営業利益又は営業損失(△)	68,799	△25,522
営業外収益		
受取利息	2,439	1,098
受取配当金	3,316	8,220
受取保険金	9,671	—
受取手数料	559	1,101
受取賃貸料	5,623	7,886
還付加算金	—	3,076
その他	6,007	8,638
営業外収益合計	27,618	30,021
営業外費用		
支払利息	10,503	7,772
売上割引	911	1,417
投資事業組合運用損	3,144	—
リース解約損	—	3,154
物損賠償金	—	2,567
その他	7,369	1,387
営業外費用合計	21,929	16,299
経常利益又は経常損失(△)	74,488	△11,800
特別利益		
貸倒引当金戻入額	3,005	2,850
役員退職慰労引当金戻入額	—	5,100
その他	※4 86	※4 322
特別利益合計	3,092	8,272
特別損失		
固定資産売却損	※5 4,674	—
固定資産除却損	※6 1,313	※6 588
投資有価証券評価損	—	245,321
その他	—	※7 856
特別損失合計	5,988	246,766
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	71,592	△250,294
法人税、住民税及び事業税	56,000	121,000
法人税等調整額	5,963	△95,578
法人税等合計	61,963	25,421
当期純利益又は当期純損失(△)	9,629	△275,715

【レンタル売上原価明細書】

		前事業年度 (自 平成19年 4月21日 至 平成20年 4月20日)		当事業年度 (自 平成20年 4月21日 至 平成21年 4月20日)	
区分	注記 番号	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 材料費		287,842	8.3	—	—
II 外注費	※1	2,239,480	64.5	—	—
III 労務費	※2	197,152	5.7	—	—
IV 経費	※3	745,939	21.5	—	—
レンタル売上原価		3,470,415	100.0	—	—

(脚注)

前事業年度	当事業年度
<p>※1 外注費には、ビケ足場の組立・解体を担当する当社の専属請負業者であるサービスマンに対する支払い(架払費)を計上しております。</p> <p>※2 労務費には、次の引当金繰入額が含まれております。</p> <p style="padding-left: 20px;">賞与引当金繰入額 7,970千円</p> <p>※3 経費のうち主な内訳は、次のとおりであります。</p> <p style="padding-left: 20px;">部材賃借料 233,069千円</p> <p style="padding-left: 20px;">減価償却費 15,962千円</p> <p style="padding-left: 20px;">地代家賃 172,960千円</p> <p style="padding-left: 20px;">消耗品費 84,124千円</p>	—

【施工売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成19年 4月21日 至 平成20年 4月20日)		当事業年度 (自 平成20年 4月21日 至 平成21年 4月20日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 材料費		—	—	270,748	5.8
II 外注費	※1	—	—	2,096,036	44.7
III 労務費	※2	—	—	1,114,500	23.8
IV 経費	※3	—	—	999,949	21.3
V 外装施工費		—	—	206,729	4.4
当期施工費用		—	—	4,687,964	100.0
施工期首たな卸高		—	—	10,775	
合計		—	—	4,698,739	
施工期末たな卸高		—	—	2,644	
他勘定振替高	※4	—	—	16	
施工売上原価		—	—	4,696,079	

(脚注)

前事業年度	当事業年度
	<p>※1 外注費には、ビケ足場の組立・解体を担当する当社の専属請負業者であるサービスマンに対する支払い（架払費）を計上しております。</p> <p>※2 労務費には、次の引当金繰入額が含まれております。</p> <p style="padding-left: 40px;">賞与引当金繰入額 48,572千円</p> <p>※3 経費のうち主な内訳は、次のとおりであります。</p> <p style="padding-left: 40px;">部材賃借料 244,952千円</p> <p style="padding-left: 40px;">減価償却費 70,533千円</p> <p style="padding-left: 40px;">地代家賃 230,106千円</p> <p style="padding-left: 40px;">消耗品費 114,472千円</p> <p>※4 他勘定振替高の内容は、部材の修理に要した修理費部分であります。</p>

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)		当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 材料費		580,192	44.8	525,175	44.6
II 外注費		501,080	38.7	421,235	35.7
III 労務費	※1	116,700	9.0	110,431	9.4
IV 経費	※2	96,968	7.5	121,486	10.3
当期総製造費用		1,294,941	100.0	1,178,328	100.0
仕掛品期首たな卸高		87,855		112,163	
合計		1,382,797		1,290,492	
仕掛品期末たな卸高		112,163		86,543	
他勘定振替高	※3	378		816	
当期製品製造原価		1,270,255		1,203,131	

(脚注)

前事業年度	当事業年度
<p>※1 労務費には、次の引当金繰入額が含まれております。</p> <p>賞与引当金繰入額 7,527千円</p>	<p>※1 労務費には、次の引当金繰入額が含まれております。</p> <p>賞与引当金繰入額 6,467千円</p>
<p>※2 経費のうち主な内訳は、次のとおりであります。</p> <p>減価償却費 21,305千円</p> <p>消耗品費 10,181千円</p>	<p>※2 経費のうち主な内訳は、次のとおりであります。</p> <p>減価償却費 48,888千円</p> <p>消耗品費 11,951千円</p>
<p>※3 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。</p> <p>販売本部への仕掛品振替 283千円</p> <p>販売本部への原材料振替 94千円</p> <hr/> <p>計 378千円</p>	<p>※3 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。</p> <p>社内使用 300千円</p> <p>仕入先破綻による仕掛品・原材料の滅失 516千円</p> <hr/> <p>計 816千円</p>
<p>(原価計算の方法)</p> <p>実際原価による総合原価計算を採用しております。</p>	<p>(原価計算の方法)</p> <p>同左</p>

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	566,760	566,760
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	566,760	566,760
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	649,860	649,860
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	649,860	649,860
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	649,860	649,860
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	649,860	649,860
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
前期末残高	49,795	49,795
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	49,795	49,795
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
前期末残高	3,568,000	3,778,000
当期変動額		
別途積立金の積立	210,000	—
当期変動額合計	210,000	—
当期末残高	3,778,000	3,778,000
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	636,403	337,241
当期変動額		
剰余金の配当	△98,791	△75,993
別途積立金の積立	△210,000	—
当期純利益	9,629	△275,715
当期変動額合計	△299,162	△351,709
当期末残高	337,241	△14,468
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	4,254,198	4,165,036

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
当期変動額		
剰余金の配当	△98,791	△75,993
別途積立金の積立	—	—
当期純利益	9,629	△275,715
当期変動額合計	△89,162	△351,709
当期末残高	4,165,036	3,813,327
自己株式		
前期末残高	△5,443	△5,443
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	△5,443	△5,443
株主資本合計		
前期末残高	5,465,374	5,376,212
当期変動額		
剰余金の配当	△98,791	△75,993
当期純利益	9,629	△275,715
当期変動額合計	△89,162	△351,709
当期末残高	5,376,212	5,024,503
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	169,128	△78,506
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△247,635	83,618
当期変動額合計	△247,635	83,618
当期末残高	△78,506	5,111
評価・換算差額等合計		
前期末残高	169,128	△78,506
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△247,635	83,618
当期変動額合計	△247,635	83,618
当期末残高	△78,506	5,111
純資産合計		
前期末残高	5,634,503	5,297,705
当期変動額		
剰余金の配当	△98,791	△75,993
当期純利益	9,629	△275,715
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△247,635	83,618
当期変動額合計	△336,797	△268,090
当期末残高	5,297,705	5,029,615

## ④【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	71,592	△250,294
減価償却費	121,023	135,415
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△13,211	11,692
賞与引当金の増減額(△は減少)	△26,351	△9,371
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	7,000	800
退職給付引当金の増減額(△は減少)	21,727	174,970
投資有価証券評価損益(△は益)	—	245,321
受取利息及び受取配当金	△5,756	△9,318
支払利息	10,503	7,772
売上債権の増減額(△は増加)	318,839	383,569
たな卸資産の増減額(△は増加)	73,310	65,332
仕入債務の増減額(△は減少)	85,598	△392,065
前払年金費用の増減額(△は増加)	63,886	—
その他	39,943	△2,796
小計	768,106	361,027
利息及び配当金の受取額	6,372	9,318
利息の支払額	△10,522	△7,697
法人税等の支払額	△378,073	△38,702
法人税等の還付額	—	97,247
営業活動によるキャッシュ・フロー	385,882	421,192
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期性預金の払戻による収入	100,000	—
有形固定資産の取得による支出	△64,124	△52,098
無形固定資産の取得による支出	△1,485	△3,500
投資有価証券の取得による支出	△318,894	—
投資有価証券の期限前償還による収入	100,000	—
貸付けによる支出	△22,140	△11,700
貸付金の回収による収入	24,281	15,695
保険積立金の積立による支出	△3,352	△3,985
差入保証金の差入による支出	△2,101	△3,960
差入保証金の回収による収入	4,570	2,304
その他	1,682	3,507
投資活動によるキャッシュ・フロー	△181,563	△53,737
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△146,700	△138,000
配当金の支払額	△98,791	△75,993
財務活動によるキャッシュ・フロー	△245,491	△213,993
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△41,172	153,461
現金及び現金同等物の期首残高	1,239,047	1,197,874
現金及び現金同等物の期末残高	1,197,874	1,351,336

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自 平成19年 4月21日 至 平成20年 4月20日)	当事業年度 (自 平成20年 4月21日 至 平成21年 4月20日)																				
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>その他有価証券</p> <p>時価のあるもの …決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）</p> <p>時価のないもの …移動平均法による原価法</p>	<p>その他有価証券</p> <p>時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p>																				
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法	<p>商品、原材料 移動平均法による原価法</p> <p>製品、仕掛品 総平均法による原価法</p> <p>貯蔵品 先入先出法による原価法</p>	<p>商品、原材料 移動平均法による原価法（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）</p> <p>製品、仕掛品 総平均法による原価法（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）</p> <p>貯蔵品 先入先出法による原価法（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）</p>																				
3. 賃貸用仮設材の評価基準及び評価方法	<p>取得年度別の総平均法による原価法に基づく取得価額から使用可能期間で均等償却した減耗費を控除する方法によっております。</p>	<p>同左</p>																				
4. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法）を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <table border="0" data-bbox="544 1391 898 1563"> <tr> <td>建物</td> <td>7～38年</td> </tr> <tr> <td>構築物</td> <td>10～15年</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>3～12年</td> </tr> <tr> <td>車輛及び運搬具</td> <td>4～5年</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td>2～20年</td> </tr> </table> <p>（会計方針の変更） 法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成19年4月21日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これにより営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ2,884千円減少しております。</p>	建物	7～38年	構築物	10～15年	機械及び装置	3～12年	車輛及び運搬具	4～5年	工具器具及び備品	2～20年	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法）を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <table border="0" data-bbox="1027 1391 1406 1563"> <tr> <td>建物</td> <td>7～38年</td> </tr> <tr> <td>構築物</td> <td>10～15年</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>2～10年</td> </tr> <tr> <td>車輛運搬具</td> <td>4～5年</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>2～20年</td> </tr> </table>	建物	7～38年	構築物	10～15年	機械及び装置	2～10年	車輛運搬具	4～5年	工具、器具及び備品	2～20年
建物	7～38年																					
構築物	10～15年																					
機械及び装置	3～12年																					
車輛及び運搬具	4～5年																					
工具器具及び備品	2～20年																					
建物	7～38年																					
構築物	10～15年																					
機械及び装置	2～10年																					
車輛運搬具	4～5年																					
工具、器具及び備品	2～20年																					



項目	前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
5. 引当金の計上基準	<p>(追加情報)</p> <p>法人税法の改正に伴い、平成19年4月20日以前に取得した有形固定資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得原価の5%に到達した事業年度の翌事業年度より、取得原価の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。</p> <p>これにより営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ5,116千円減少しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。</p> <p>(3) 長期前払費用 定額法を採用しております。</p> <p>(1) 貸倒引当金 売上債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、当期に負担すべき支給見込額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、期末における退職給付債務及び年金資産残高に基づき計上しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(追加情報)</p> <p>機械及び装置については、従来、耐用年数3～12年としておりましたが、当事業年度より2～10年に変更しております。</p> <p>これは、平成20年度の税制改正により耐用年数を見直したことによるものであり、製品製造用機械を10年に、施工部材整備用機械を2年～10年に変更しております。</p> <p>これにより営業損失、経常損失及び税引前当期純損失は、それぞれ690千円減少しております。</p> <p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>(3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(4) 長期前払費用 定額法を採用しております。</p> <p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 同左</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
6. 割賦販売取引の売上高及び売上原価の計算方法	割賦販売取引に係る会計処理については、製品等の引渡し時において割賦販売取引に係る債権総額を割賦売掛金として計上し、回収期限到来の日をもって売上高及び売上原価を計上する方法によっております。	—————
7. リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	—————
8. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか伴わない取得から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同左
9. その他財務諸表作成のための重要な事項	消費税等の会計処理 税抜き方式によっております。	消費税等の会計処理 同左

【会計方針の変更】

<p>前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)</p>
	<p>(1) 施工原価と販売費及び一般管理費の計上基準の変更            施工現場に係る経費についてはレンタル原価として計上してまいりましたが、当事業年度より、従来のレンタル原価に加えて、施工部における人件費及び経費等について施工原価として計上することになりました。            これは、組織改編に伴い、その実態に見合う各部門部署の業績及びコスト管理に繋げていくためであります。            この変更により、従来の方法と比べて、売上原価が960,952千円増加し、販売費及び一般管理費が同額減少しております。</p> <p>(2) 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用            「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成18年7月5日公表分 企業会計基準第9号)を当事業年度から適用し、評価基準については、原価法(取得原価基準)から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。            この変更による営業損失、経常損失及び税引前当期純損失への影響はありません。</p> <p>(3) リース取引に関する会計基準の適用            所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。            この変更による営業損失、経常損失及び税引前当期純損失への影響はありません。            なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。</p>

【表示方法の変更】

前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)																																																																					
	<p>1. 組織改編に伴い、当事業年度より従来のレンタル売上高及びレンタル売上原価を施工売上高及び施工売上原価に変更しております。</p> <p>また、商品売上高及び商品売上原価の一部を施工売上高及び施工売上原価に変更しております。</p> <p>前事業年度の売上高及び売上原価を当事業年度の表示区分により区分すると次のとおりとなります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>売上高</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  施工売上高</td> <td style="text-align: right;">5,502,362</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  製品売上高</td> <td style="text-align: right;">1,596,590</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  商品売上高</td> <td style="text-align: right;">190,011</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  その他売上収入</td> <td style="text-align: right;">101,327</td> <td style="text-align: right;">7,390,292</td> </tr> <tr> <td>売上原価</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  施工売上原価</td> <td></td> <td style="text-align: right;">3,772,352</td> </tr> <tr> <td>  製品売上原価</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>    製品期首たな卸高</td> <td style="text-align: right;">431,616</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    当期製品製造原価</td> <td style="text-align: right;">1,270,255</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    合計</td> <td style="text-align: right;">1,701,872</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    製品期末たな卸高</td> <td style="text-align: right;">335,163</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    製品他勘定振替高</td> <td style="text-align: right;">△262,300</td> <td style="text-align: right;">1,104,408</td> </tr> <tr> <td>  商品売上原価</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>    商品期首たな卸高</td> <td style="text-align: right;">38,330</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    当期商品仕入高</td> <td style="text-align: right;">200,261</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    合計</td> <td style="text-align: right;">238,592</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    商品期末たな卸高</td> <td style="text-align: right;">30,349</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    商品他勘定振替高</td> <td style="text-align: right;">△52,070</td> <td style="text-align: right;">156,171</td> </tr> <tr> <td>  その他売上原価</td> <td></td> <td style="text-align: right;">56,403</td> </tr> <tr> <td>売上原価合計</td> <td></td> <td style="text-align: right;">5,089,335</td> </tr> <tr> <td>売上総利益</td> <td></td> <td style="text-align: right;">2,300,957</td> </tr> </tbody> </table>	区分	金額 (千円)		売上高			施工売上高	5,502,362		製品売上高	1,596,590		商品売上高	190,011		その他売上収入	101,327	7,390,292	売上原価			施工売上原価		3,772,352	製品売上原価			製品期首たな卸高	431,616		当期製品製造原価	1,270,255		合計	1,701,872		製品期末たな卸高	335,163		製品他勘定振替高	△262,300	1,104,408	商品売上原価			商品期首たな卸高	38,330		当期商品仕入高	200,261		合計	238,592		商品期末たな卸高	30,349		商品他勘定振替高	△52,070	156,171	その他売上原価		56,403	売上原価合計		5,089,335	売上総利益		2,300,957
区分	金額 (千円)																																																																					
売上高																																																																						
施工売上高	5,502,362																																																																					
製品売上高	1,596,590																																																																					
商品売上高	190,011																																																																					
その他売上収入	101,327	7,390,292																																																																				
売上原価																																																																						
施工売上原価		3,772,352																																																																				
製品売上原価																																																																						
製品期首たな卸高	431,616																																																																					
当期製品製造原価	1,270,255																																																																					
合計	1,701,872																																																																					
製品期末たな卸高	335,163																																																																					
製品他勘定振替高	△262,300	1,104,408																																																																				
商品売上原価																																																																						
商品期首たな卸高	38,330																																																																					
当期商品仕入高	200,261																																																																					
合計	238,592																																																																					
商品期末たな卸高	30,349																																																																					
商品他勘定振替高	△52,070	156,171																																																																				
その他売上原価		56,403																																																																				
売上原価合計		5,089,335																																																																				
売上総利益		2,300,957																																																																				

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成20年4月20日)	当事業年度 (平成21年4月20日)																								
<p>※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は、次のとおりであります。</p> <p>(イ)担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">23,837千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">408,289千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px; border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">432,126千円</td> </tr> </table> <p>(ロ)上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">一年内返済長期借入金</td> <td style="text-align: right;">138,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">339,500千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px; border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">477,500千円</td> </tr> </table>	建物	23,837千円	土地	408,289千円	計	432,126千円	一年内返済長期借入金	138,000千円	長期借入金	339,500千円	計	477,500千円	<p>※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は、次のとおりであります。</p> <p>(イ)担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">21,665千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">408,289千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px; border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">429,954千円</td> </tr> </table> <p>(ロ)上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">一年内返済長期借入金</td> <td style="text-align: right;">138,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">201,500千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px; border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">339,500千円</td> </tr> </table>	建物	21,665千円	土地	408,289千円	計	429,954千円	一年内返済長期借入金	138,000千円	長期借入金	201,500千円	計	339,500千円
建物	23,837千円																								
土地	408,289千円																								
計	432,126千円																								
一年内返済長期借入金	138,000千円																								
長期借入金	339,500千円																								
計	477,500千円																								
建物	21,665千円																								
土地	408,289千円																								
計	429,954千円																								
一年内返済長期借入金	138,000千円																								
長期借入金	201,500千円																								
計	339,500千円																								
<p>※2. 期末日満期手形</p> <p>期末日満期手形の会計処理については、当期の末日は金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形の金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取手形</td> <td style="text-align: right;">4,160千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払手形</td> <td style="text-align: right;">52,502千円</td> </tr> </table>	受取手形	4,160千円	支払手形	52,502千円	<p>※2.</p> <p style="text-align: center;">—————</p>																				
受取手形	4,160千円																								
支払手形	52,502千円																								

## (損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
※1. 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。 賃貸用仮設材への振替高 261,709千円 割賦販売に係る当期回収売掛金に対応する原価 △3,811千円 その他 4,401千円 <hr/> 計 262,300千円	※1. 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。 賃貸用仮設材への振替高 240,868千円 その他 3,541千円 <hr/> 計 244,409千円
※2. 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。 賃貸用仮設材への振替高 52,000千円 その他 70千円 <hr/> 計 52,070千円	※2. 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。 賃貸用仮設材への振替高 65,332千円 その他 23千円 <hr/> 計 65,355千円
※3. 研究開発費の総額 一般管理費及び当期総製造費用に含まれる研究開発費 40,453千円	※3. 研究開発費の総額 一般管理費及び当期総製造費用に含まれる研究開発費 27,615千円
※4. 特別利益の「その他」の内容は、次のとおりであります。 償却債権取立益 86千円	※4. 特別利益の「その他」の内容は、次のとおりであります。 償却債権取立益 322千円
※5. 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。 電話加入権 4,674千円	
※6. 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。 建物 364千円 構築物 759千円 工具器具及び備品 95千円 機械及び装置 21千円 電話加入権 72千円 <hr/> 計 1,313千円	※6. 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。 構築物 209千円 工具、器具及び備品 379千円 <hr/> 計 588千円
	※7. 特別損失の「その他」の内容は、次のとおりであります。 裁判着手金 340千円 預け在庫滅失による損害 516千円 <hr/> 計 856千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成19年4月21日 至平成20年4月20日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	7,618	—	—	7,618
合計	7,618	—	—	7,618
自己株式				
普通株式	18	—	—	18
合計	18	—	—	18

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成19年7月18日 定時株主総会	普通株式	60,794	8	平成19年4月20日	平成19年7月19日
平成19年11月6日 取締役会	普通株式	37,996	5	平成19年10月20日	平成20年1月17日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年7月9日 定時株主総会	普通株式	37,996	利益剰余金	5	平成20年4月20日	平成20年7月10日

当事業年度（自平成20年4月21日 至平成21年4月20日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 （千株）	当事業年度増加株式数 （千株）	当事業年度減少株式数 （千株）	当事業年度末株式数 （千株）
発行済株式				
普通株式	7,618	—	—	7,618
合計	7,618	—	—	7,618
自己株式				
普通株式	18	—	—	18
合計	18	—	—	18

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成20年7月9日 定時株主総会	普通株式	37,996	5	平成20年4月20日	平成20年7月10日
平成20年11月6日 取締役会	普通株式	37,996	5	平成20年10月20日	平成21年1月16日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成21年7月9日 定時株主総会	普通株式	37,996	利益剰余金	5	平成21年4月20日	平成21年7月10日



## (キャッシュ・フロー計算書関係)

前事業年度 (自 平成19年 4月21日 至 平成20年 4月20日)	当事業年度 (自 平成20年 4月21日 至 平成21年 4月20日)
※1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係 (平成20年 4月20日現在)	※1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係 (平成21年 4月20日現在)
現金及び預金勘定 <u>1,197,874千円</u>	現金及び預金勘定 <u>1,351,336千円</u>
現金及び現金同等物 <u>1,197,874千円</u>	現金及び現金同等物 <u>1,351,336千円</u>

## (リース取引関係)

前事業年度 (自 平成19年 4月21日 至 平成20年 4月20日)	当事業年度 (自 平成20年 4月21日 至 平成21年 4月20日)																								
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引																								
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額	(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 15%;">取得価額相当額 (千円)</th> <th style="width: 15%;">減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th style="width: 15%;">期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: center;">4,850</td> <td style="text-align: center;">1,050</td> <td style="text-align: center;">3,799</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">4,850</td> <td style="text-align: center;">1,050</td> <td style="text-align: center;">3,799</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	工具、器具及び備品	4,850	1,050	3,799	合計	4,850	1,050	3,799	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 15%;">取得価額相当額 (千円)</th> <th style="width: 15%;">減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th style="width: 15%;">期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: center;">4,850</td> <td style="text-align: center;">2,101</td> <td style="text-align: center;">2,748</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">4,850</td> <td style="text-align: center;">2,101</td> <td style="text-align: center;">2,748</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	工具、器具及び備品	4,850	2,101	2,748	合計	4,850	2,101	2,748
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																						
工具、器具及び備品	4,850	1,050	3,799																						
合計	4,850	1,050	3,799																						
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																						
工具、器具及び備品	4,850	2,101	2,748																						
合計	4,850	2,101	2,748																						
(2) 未経過リース料期末残高相当額	(2) 未経過リース料期末残高相当額																								
1年内 <span style="float: right;">937千円</span>	1年内 <span style="float: right;">971千円</span>																								
1年超 <span style="float: right;">2,933千円</span>	1年超 <span style="float: right;">1,962千円</span>																								
合計 <span style="float: right;">3,871千円</span>	合計 <span style="float: right;">2,933千円</span>																								
(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額	(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額																								
支払リース料 <span style="float: right;">1,060千円</span>	支払リース料 <span style="float: right;">1,060千円</span>																								
減価償却費相当額 <span style="float: right;">969千円</span>	減価償却費相当額 <span style="float: right;">969千円</span>																								
支払利息相当額 <span style="float: right;">156千円</span>	支払利息相当額 <span style="float: right;">123千円</span>																								
(4) 減価償却費相当額の算定方法	(4) 減価償却費相当額の算定方法																								
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	同左																								
(5) 利息相当額の算定方法	(5) 利息相当額の算定方法																								
リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。	同左																								
(減損損失について)	(減損損失について)																								
リース資産に配分された減損損失はありません。	同左																								

(有価証券関係)

前事業年度 (平成20年4月20日現在)

1. その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	株式	9,864	34,980	25,115
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	株式	401,392	243,910	△157,482
合計		411,257	278,890	△132,367

(注) 当事業年度において、減損処理を行っておりません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

2. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	貸借対照表計上額 (千円)
(1) その他有価証券	
非上場株式	2,650
その他	16,091

当事業年度 (平成21年4月20日現在)

1. その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	株式	9,864	18,483	8,618
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	株式	156,071	156,071	—
合計		165,935	174,554	8,618

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当事業年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損245,321千円を計上しております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

2. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	貸借対照表計上額 (千円)
(1) その他有価証券	
非上場株式	2,650
その他	13,322

(デリバティブ取引関係)

前事業年度（自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日）及び当事業年度（自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日）

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として適格退職年金制度を設けております。なお、退職給付債務等については、簡便法により計算しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前事業年度 (平成20年4月20日)	当事業年度 (平成21年4月20日)
(1) 退職給付債務（千円）	△529,996	△568,312
(2) 年金資産（千円）	508,268	371,614
(3) 退職給付引当金（千円）	△21,727	△196,698

3. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
(1) 勤務費用（千円）	131,918	174,970
(2) 退職給付費用（千円）	131,918	174,970

(ストック・オプション等関係)

前事業年度（自平成19年4月21日 至平成20年4月20日）

該当事項はありません。

当事業年度（自平成20年4月21日 至平成21年4月20日）

該当事項はありません。

## (税効果会計関係)

前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (単位：千円)	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (単位：千円)
繰延税金資産（流動）	繰延税金資産（流動）
賞与引当金 47,757	賞与引当金 43,944
未払社会保険料 10,799	未払社会保険料 11,084
未払事業税 △4,952	貸倒引当金 11,830
その他 5,268	未払事業税 8,531
繰延税金資産（流動）合計 58,873	その他 4,676
繰延税金資産（固定）	繰延税金資産（流動）合計 80,067
有価証券評価差額金 64,079	繰延税金資産（固定）
役員退職慰労引当金 37,719	投資有価証券評価損 99,821
退職給付引当金 27,682	退職給付引当金 80,036
貸倒引当金 4,458	役員退職慰労引当金 38,045
その他 2,156	貸倒引当金 7,321
評価性引当金 △4,287	その他 2,156
繰延税金資産（固定）合計 131,808	評価性引当金 △104,109
繰延税金負債（固定）	繰延税金資産（固定）合計 123,272
前払年金費用 △18,841	繰延税金負債（固定）
有価証券評価差額金 △10,219	有価証券評価差額金 △3,506
繰延税金負債（固定）合計 △29,060	繰延税金負債（固定）合計 △3,506
繰延税金資産（負債）の純額 102,748	繰延税金資産（負債）の純額 119,765
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の主要な項目別の内訳	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の主要な項目別の内訳
法定実効税率 40.7%	法定実効税率 40.7%
(調整)	(調整)
住民税均等割 31.6	評価性引当金 △39.9
交際費 8.9	住民税均等割 △9.0
評価性引当金 6.0	交際費 △2.3
その他 △0.6	その他 0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率 86.6%	税効果会計適用後の法人税等の負担率 △10.1%

(持分法損益等)

前事業年度 (自平成19年4月21日 至平成20年4月20日)

該当事項はありません。

当事業年度 (自平成20年4月21日 至平成21年4月20日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度 (自平成19年4月21日 至平成20年4月20日)

役員及び個人主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員の子親が議決権の過半数を所有している会社等	有限会社山内製作所	堺市中区	3,000	プレス・切断加工業	なし	なし	当社製品の加工	当社製品の加工	20,382	買掛金	3,746
役員の子親が議決権の過半数を所有している会社等	有限会社米村建興	熊本県熊本市	3,000	建築工事業	なし	なし	ビケ足場施工サービスの受発注及び商品レンタル	ビケ足場施工サービスの受注	3,350	売掛金	452
							仮設トイレのレンタル・ビケ足場施工サービスの発注	仮設トイレのレンタル・ビケ足場施工サービスの発注	26,242	買掛金	4,719

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

有限会社山内製作所に対する外注加工については、当社の製作仕様書に基づいて見積りの提示をうけ、当社の標準作業をもとに原価試算した価格と比較し、交渉により決定しております。

有限会社米村建興との受発注金額は、双方の標準単価表に基づいて算定した価格によっております。また、仮設トイレのレンタル料については、当社が他業者からレンタルしている仮設トイレの金額をもとに、交渉により決定しております。

当事業年度（自平成20年4月21日 至平成21年4月20日）

（追加情報）

当事業年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準第11号 平成18年10月17日）及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日）を適用しております。

なお、これによる開示対象範囲の変更はありません。

財務諸表提出会社の役員及びその近親者等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員の近親者が議決権の過半数を所有している会社等	有限会社山内製作所	堺市中区	3,000	プレス・切斷加工業	なし	当社製品の加工	当社製品の加工	16,524	買掛金	1,570
役員の近親者が議決権の過半数を所有している会社等	有限会社米村建興	熊本県熊本市	3,000	建築工事業	なし	ビケ足場施工サービスの受発注及び商品レンタル	ビケ足場施工サービスの受注	2,818	売掛金	360
						仮設トイレのレンタル・ビケ足場施工サービスの発注		26,250	買掛金	3,877

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

有限会社山内製作所に対する外注加工については、当社の製作仕様書に基づいて見積りの提示をうけ、当社の標準作業をもとに原価試算した価格と比較し、交渉により決定しております。

有限会社米村建興との受発注金額は、双方の標準単価表に基づいて算定した価格によっております。また、仮設トイレのレンタル料については、当社が他業者からレンタルしている仮設トイレの金額をもとに、交渉により決定しております。

## (1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
1株当たり純資産額(円)	697.13	661.85
1株当たり当期純利益または当期純損失(△)(円)	1.27	△36.28
潜在株式調整後1株当たり当期純利益または当期純損失(△)(円)	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日)	当事業年度 (自 平成20年4月21日 至 平成21年4月20日)
1株当たり当期純利益金額または当期純損失金額		
当期純利益または当期純損失(△) (千円)	9,629	△275,715
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益または当期純損失(△)(千円)	9,629	△275,715
期中平均株式数(千株)	7,599	7,599
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	該当事項はありません。	同左

(重要な後発事象)

## 1. 自己株式の取得

当社は、平成21年3月4日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規程により読み替えられて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得すること及びその具体的方法について決議し、自己株式の取得を以下のとおり実施いたしました。

### (1) 自己株式取得に関する取締役会の決議内容

- |            |                      |
|------------|----------------------|
| ①取得する株式の種類 | 当社普通株式               |
| ②取得する株式の総数 | 100,000株(上限)         |
| ③取得価額の総額   | 35,000,000円(上限)      |
| ④取得する期間    | 平成21年3月9日～平成21年4月20日 |

### (2) 取得日

- |      |            |
|------|------------|
| ①約定日 | 平成21年4月20日 |
| ②受渡日 | 平成21年4月23日 |

### (3) その他

大阪証券取引所のJ-NET市場における取得の結果、当社普通株式33,400株(取得価額9,519千円)を取得いたしました。

## 2. 社債(私募債)の発行

当社は、平成21年4月20日開催の取締役会において、私募債の発行について決議し、以下のとおり実施いたしました。

### (1) 発行内容

- |            |   |
|------------|---|
| ①発行した社債の名称 | 株式会社ダイサン第1回無担保社債<br>(株式会社三井住友銀行保証付および適格機関投資家限定) |
| ②発行価額      | 額面100円につき金100円                                  |
| ③発行総額      | 金3億円  |
| ④利率        | 年1.14%  |
| ⑤償還方法      | 6ヶ月毎、金30,000,000円償還                             |
| ⑥償還期限      | 平成26年4月30日(5年債)                                 |
| ⑦発行日       | 平成21年4月30日                                      |
| ⑧担保の内容     | 無担保、無保証   |
| ⑨資金の用途     | 長期運転資金  |

## 3. 社債(私募債)の発行

当社は、平成21年6月3日開催の取締役会において、私募債の発行について決議し、発行内容及び予定内容は以下のとおりとなります。

### (1) 発行内容

- |            |  |
|------------|--|
| ①発行した社債の名称 | 株式会社ダイサン第2回無担保社債<br>(株式会社三菱東京UFJ銀行保証付および適格機関投資家限定) |
| ②発行価額      | 額面100円につき金100円                                     |
| ③発行総額      | 金3億円   |
| ④利率        | 年1.03%   |
| ⑤償還方法      | 6ヶ月毎、金30,000,000円償還                                |
| ⑥償還期限      | 平成26年6月30日(5年債)                                    |
| ⑦発行日       | 平成21年6月30日   |
| ⑧担保の内容     | 無担保、無保証  |
| ⑨資金の用途     | 長期運転資金   |



(2) 発行予定内容

①社債の名称	株式会社ダイサン第3回無担保社債 (株式会社りそな銀行保証付および適格機関投資家限定)
②発行価額	額面100円につき金100円
③発行総額	金3億円
④利率	年1.17%
⑤償還方法	6ヶ月毎、金30,000,000円償還
⑥償還期限	平成26年7月25日(5年債)
⑦発行日	平成21年7月27日
⑧担保の内容	無担保、無保証
⑨資金の用途	長期運転資金

4. 退職金制度について

当社は平成21年7月1日から現行の適格退職年金制度を廃止し、確定拠出年金制度へ移行することにより、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用いたします。

なお、この制度変更による翌事業年度の損益に与える影響額は、年金資産残高、退職給付債務額を算定中であるため、現時点では未確定であります。

⑤【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
		エスアールジータカミヤ(株)	356,000	145,960
		伊藤忠商事(株)	31,000	17,949
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	1,700	5,151
		(株)三菱東京UFJフィナンシャルグループ	10,000	4,960
		(株)東京ビケ足場	5,000	2,500
		東建コーポレーション(株)	200	534
		その他(2銘柄)	6,003	150
		計	409,903	177,204

【その他】

投資有価証券	その他有価証券	種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (千円)
		(投資事業有限責任組合契約) 大阪投資育成第4号ファンド	2	13,322
		計	2	13,322

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残 高 (千円)
有形固定資産							
建物	—	—	—	799,859	500,680	29,472	299,179
構築物	—	—	—	326,466	258,548	16,573	67,917
機械及び装置	—	—	—	678,539	612,532	18,522	66,007
車輛運搬具	—	—	—	355	344	3	10
工具、器具及び備品	—	—	—	296,867	260,949	42,839	35,917
土地	—	—	—	1,750,783	—	—	1,750,783
有形固定資産計	—	—	—	3,852,871	1,633,055	107,410	2,219,816
無形固定資産							
借地権	—	—	—	15,936	—	—	15,936
ソフトウェア	—	—	—	143,755	109,198	27,948	34,557
電話加入権	—	—	—	6,627	—	—	6,627
その他	—	—	—	860	705	56	154
無形固定資産計	—	—	—	167,179	109,903	28,005	57,275
長期前払費用	19,140	3,082	2,511	19,711	7,130	3,820	12,581
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

- (注) 1. 有形固定資産の増加額及び減少額がいずれも有形固定資産の総額の100分の5以下であるため、「前期末残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。
2. 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため、「前期末残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	138,000	138,000	1.96	—
1年以内に返済予定のリース債務	—	—	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	339,500	201,500	1.97	平成23年
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	—	—	—	—
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	477,500	339,500	—	—

(注) 1. 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く）の貸借対照表日後5年内における1年ごとの返済予定の総額は次のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	138,000	63,500	—	—

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	69,620	37,827	23,285	2,850	81,312
賞与引当金	117,369	107,998	111,784	5,584	107,998
役員退職慰労引当金	92,700	6,800	900	5,100	93,500

(注) 貸倒引当金の「当期減少額（その他）」2,850千円は、回収による戻入額2,599千円、及び貸倒処理時の仮受消費税部分の戻入250千円であります。

賞与引当金及び役員退職慰労引当金の「当期減少額（その他）」は引当差額の取崩によるものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 資産の部

1) 現金及び預金

区分	金額 (千円)
現金	3,692
預金の種類	
当座預金	1,101,982
普通預金	245,312
別段預金	348
小計	1,347,644
合計	1,351,336

2) 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
伊藤忠建機株式会社	257,391
芙蓉総合リース株式会社	84,510
株式会社スタック	47,878
マルイチ株式会社	20,347
タマホーム株式会社	16,085
その他	152,683
合計	578,896

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額 (千円)
平成21年 5月	337,587
6月	124,334
7月	63,275
8月	36,175
9月	17,524
10月以降	—
合計	578,896

3) 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
大和ハウス工業株式会社	56,216
伊藤忠建機株式会社	27,642
住友不動産株式会社	22,390
西武建設株式会社	20,689
パナホーム株式会社	18,839
その他	612,209
合計	757,988

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} - \frac{(B)}{365}$
1,281,417	7,455,299	7,978,727	757,988	91.3	49.9

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

4) 商品及び製品

品目	金額 (千円)
商品	
ビケ部材	4,466
一般仮設	24,744
小計	29,211
製品	
ビケ部材	335,572
一般仮設	26,334
小計	361,906
合計	391,118

## 5) 原材料及び貯蔵品

区分	金額 (千円)
原材料	
パイプ	41,633
ボルト・ナット・リベット	14,845
コイル	9,987
エキスパンドメタル	391
切板	1,916
その他	26,088
小計	94,862
貯蔵品	
製造用資材	1,763
小計	1,763
合計	96,625

## 6) 仕掛品

区分	金額 (千円)
ビケ部材	60,631
一般仮設	25,912
合計	86,543

## 7) 賃貸用仮設材

区分	金額 (千円)
支柱類	103,457
踏板、布材、ブラケット、ジャッキ、階段、筋交等	341,326
合計	444,783

② 負債の部

1) 支払手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
キョーワ株式会社	29,198
JFE商事甲南スチールセンター株式会社	14,912
谷本鉄鋼株式会社	14,568
株式会社春日	12,332
佐藤商事株式会社	11,451
その他	101,989
合計	184,453

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額 (千円)
平成21年 5月	70,135
6月	24,695
7月	29,071
8月	47,895
9月	12,452
10月以降	204
合計	184,453

2) 買掛金

相手先	金額 (千円)
株式会社山本興業	17,868
岸砒油株式会社	15,046
平田公司	8,129
中央鋼管建材株式会社	8,018
日野興業株式会社	7,385
その他	260,603
合計	317,051

## (3) 【その他】

## 当事業年度における四半期情報

	第1四半期 自平成20年4月21日 至平成20年7月20日	第2四半期 自平成20年7月21日 至平成20年10月20日	第3四半期 自平成20年10月21日 至平成21年1月20日	第4四半期 自平成21年1月21日 至平成21年4月20日
売上高(千円)	1,750,152	2,219,609	1,776,411	1,377,894
税引前四半期純利益 金額または純損失金 額(△)(千円)	172	△139,381	△28,455	△82,629
四半期純利益金額ま たは純損失金額 (△) (千円)	△12,105	△195,258	△11,957	△56,394
1株当たり四半期純 利益金額または純損 失金額(△)(円)	△1.59	△25.69	△1.57	△7.42



## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月21日から4月20日まで
定時株主総会	毎決算期の翌日より3ヶ月以内
基準日	4月20日
剰余金の配当の基準日	10月20日 4月20日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜二丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	以下の算出により1単元当たりの金額を算出し、これを買取った単元未満株式の数で按分した金額 (算式) 1株当たりの買取価格に1単元の株式数を乗じた合計金額のうち 100万円以下の金額につき 1.150% 100万円を超え500万円以下の金額につき 0.900% 500万円を超え1,000万円以下の金額につき 0.700% 1,000万円を超え3,000万円以下の金額につき 0.575% 3,000万円を超え5,000万円以下の金額につき 0.375% (円未満の端数を生じた場合には切り捨てる) ただし、1単元当たりの算定金額が2,500円に満たない場合には2,500円とする。
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.daisan-g.co.jp">http://www.daisan-g.co.jp</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第34期）（自 平成19年4月21日 至 平成20年4月20日）平成20年7月9日近畿財務局長に提出

#### (2) 四半期報告書及び確認書

（第35期第1四半期）（自 平成20年4月21日 至 平成20年7月20日）平成20年9月3日近畿財務局長に提出

（第35期第2四半期）（自 平成20年7月21日 至 平成20年10月20日）平成20年12月2日近畿財務局長に提出

（第35期第3四半期）（自 平成20年10月21日 至 平成21年1月20日）平成21年3月4日近畿財務局長に提出

#### (3) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自 平成21年3月1日 至 平成21年3月31日）平成21年4月21日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年4月30日）平成21年5月1日近畿財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書

平成20年6月23日

株式会社ダイサン

取締役会 御中

## 霞が関監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 藤本勝美 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 森内茂之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダイサンの平成19年4月21日から平成20年4月20日までの第34期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ダイサンの平成20年4月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年7月9日

株式会社ダイサン

取締役会 御中

## 霞が関監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 藤本 勝美 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 野村 利宏 印

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダイサンの平成20年4月21日から平成21年4月20日までの第35期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ダイサンの平成21年4月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 追記情報

会計方針の変更に記載されているとおり、会社は従来、施工現場に係る経費についてはレンタル原価として計上していたが、当事業年度より、レンタル原価に加えて、施工部における人件費及び経費等について施工原価として計上する方法に変更している。

### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ダイサンの平成21年4月20日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ダイサンが平成21年4月20日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成21年7月9日
【会社名】	株式会社ダイサン
【英訳名】	DAISAN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 三浦 基和
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市中央区南本町二丁目6番12号
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長三浦基和は、当社の第35期（自平成20年4月21日 至平成21年4月20日）の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。

## 【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成21年7月9日
【会社名】	株式会社ダイサン
【英訳名】	DAISAN CO., LTD
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 三浦 基和
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市中央区南本町二丁目6番12号
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長三浦基和は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成21年4月20日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況の評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行っております。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しております。なお、当社には連結対象になる子会社等は存在しない為、全社的な内部統制の評価対象は当社のみとなります。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、当社の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象としております。さらに、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日現在において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しております。

## 4 【付記事項】

付記すべき事項はありません。

## 5 【特記事項】

特記すべき事項はありません。